

主催:東京外国語大学GSL・研費基盤研究(B)「生命統治時代の〈オイコス〉再考とポスト・グローバル世界像の研究」/
共催:東洋大学・科研費研究スタート支援「破局の経験から共生の倫理へ」

国際ワークショップ

ギュンター・アンダースと核の問題

ヒロシマ以後の歴史を「猶予」としてとらえ、「核状況」を「古びることのない」課題としたアンダースの思想を振り返り、日常化した思考停止のなかで深化する「われわれの核状況」を問い直す。

2013年10月31日(木) 17:30-19:30

東京外国語大学・総合文化研究所会議室

講演

クリストフ・ダヴィッド(レンヌ大学)

「ギュンター・アンダースと核
—— 猶予期間としての歴史 ——」

ディスカッサント

西谷 修(東京外国語大学)

中山 智香子(東京外国語大学)

モデレーター

渡名喜 庸哲(東洋大学)

入場無料・登録不要

使用言語 フランス語・日本語(適宜通訳がつきます)



お問い合わせ tonaki@toyo.jp